

8 報告

(4) 手賀教会から寄贈を受けた美術工芸品について

ア. 経過

R2.11 手賀教会にて、旧手賀教会堂保存修理工事に伴う信者へのヒアリング時に祭具類や染織品の収蔵を確認

R3.7 石版画イコン修復委託

R3.12 宗教法人日本ハリストス正教会教団から資料一式寄贈

R4.7 染織品について横山委員から指導・助言を受け、表面清掃委託

R6.2 石版画イコン、県文化財調査

染織品について、調査を行い修復を進める方向で県承諾

R6 年度 染織品について保存状態の基礎調査委託を予定

イ. 所見

佐賀大学染織品保存修復学の石井美恵氏の所見（染織品資料）

これらの司祭服は上流階級の人が生地を寄進して製作した可能性があり、一部は 18 世紀頃の生地と思われるものが使用されている。司祭服はヨーロッパには現存しているが、日本で現存するものは貴重。

千葉県文化財保護審議会委員の山梨委員の所見

現時点では祭具類・染織品とともに資料の価値づけが不十分なため、すぐに指定に進めるのは難しい。古文書など美術工芸品以外の資料も含めた整理・調査と、染織品資料の基礎調査・修復を同時並行で進めるべき。

千葉県文化財課の所見

まずは、教会関連資料の全体像の把握が必要。教会資料という特殊なものであるため、価値づけが不明なものが多い。ひとまず「登録文化財」にする方法もあるが、今後も継続して古文書類も併せた調査を行い、県指定を目指すのが良いのではないか。

ウ. 今後の進め方について

次回会議までに教会関連資料のリスト化、石版画イコンの類例確認、関連古文書類の全体像把握を事務局で行う。古文書類の解読は文化課市史編さん担当に依頼し、実資料との照合を行う。同時に染織品資料の基礎調査委託を実施。

次回会議で資料を提示し、今後の進め方について意見聴取を行いたい。



司祭祭服（下着・正面）



司祭祭服（下着・背面）



司祭祭服（エピトラヒリ）



司祭祭服（籠手）



司祭祭服（帯）



司祭祭服（フェロン）



堂役衣装（正面）



堂役衣装（背面）



堂役衣装（製造者ラベル）



葬礼時衣装（法被）



棺掛け（葬礼用）



燭台（吊り型）



香炉（置き型）



燭台（置き型）①



燭台（置き型）②



燭台（取り付け型）



石版画イコン